

校内ポスター作成における情報デザインの指導

行事の案内のポスターや、文化祭や体育祭の校内新聞などを選択授業で制作して掲示しています。情報科の授業なので、アートの指導ではなく、情報を伝えるための整理・加工についてセオリーを指導しています。

かたちのないもの、目に見えないものを見るかたちにする。具体的な作品例をもとに、セオリーと指導法について紹介します。

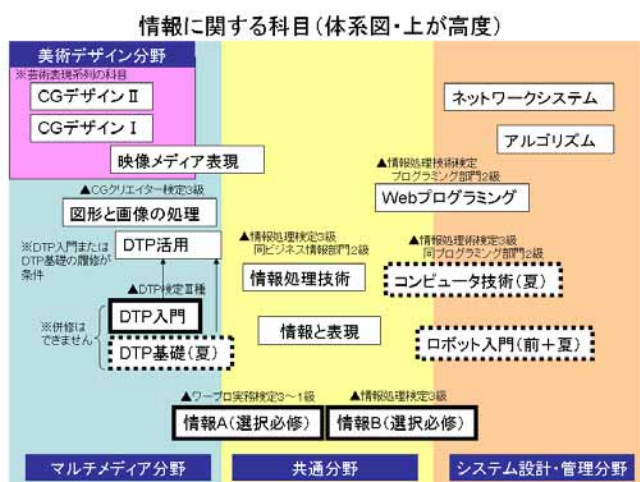
神奈川県立横浜清陵総合高等学校 情報科 / 情報科学系列 五十嵐 誠
Email : arashi50@pen-kanagawa.ed.jp Blog : 総合学科「情報」日誌

1. 学校紹介

平成16年に2つの普通科高校の統廃合により開校。情報科学系列など6つの系列があり、必修科目以外は興味関心や進路に応じて自由に科目を選択することができる全日制単位制総合学科高校です。

す。例年、文化祭と体育祭の新聞作りを行っており、翌年まで全作品を掲示しています。

年間を通じて立ち読みする生徒は多く、新入生は学校の雰囲気を知ることができ、卒業年次生は最後の思い出づくりへの構想を練っています。



4つの特色科目が年度末に年次内の発表会を行い、その中から選出された代表による全校での学習成果発表会を行います。このポスターは「DTP入門」「DTP活用」の受講生が作成し、多目的ホールの扉や廊下の至るところに掲示されます。生徒は発表会の日程を確認しながら、モチベーションを高めて準備を進めることができるという効果があります。

横浜清陵総合高校には、カリキュラムの背骨にあたる4つの特色科目があります。

- 産業社会と人間(1年次 / 総合学科必修科目)
- コミュニケーション(2年次 / 学校設定科目)
- 視点(2年次 / 総合的な学習)
- 探求[課題研究](3年次 / 総合的な学習)

生徒は、これらの科目を通して、社会を知り、興味と進路を考えながら科目選択をし、将来に向けての基礎作りをしていきます。



2. 行事新聞と発表会ポスターの効果

学校設定科目「DTP入門」では、WordとPublisherという身近なソフトで紙媒体の表現活動を扱いま

現在も昨年度のポスターを残しており、過去に学んだことを振り返る効果と、今学習していることをおろそかに扱わないように暗示する効果があります。

3. DTPの授業で日常的に指導している内容

「DTP 入門」「DTP 基礎」では、前半は、テキスト「Microsoft Word レイアウトデザインガイドブック」を利用して基本的な技術と知識を習得します。

このテキストに込められているものが、指導のベースになっています。

ラフスケッチを描く段階

- ・必ず原寸のラフスケッチを描く。
- ・内容をグループ化し、紙面を分割して配置する。
- ・写真は、簡単なイラストで雰囲気分かるように描く。
- ・写真素材を選ぶ際には、トリミングして使うことを想定して、レイアウトを考える。
- ・人物写真で、人物の向く方向があれば、紙面の中央に向くように、レイアウトの位置を決定する。
- ・テキストの行長が長すぎる場合は、段組みを考える。無理な場合は、行間値を上げる。
- ・画像、見出しとも、「主役」と「脇役」のメリハリをつける。思い切って差をつける。
- ・グリッドシステムを意識して、揃える配置を。
- ・テーマとなる色を決めておく。メインで使用する写真の中で使われている色を選ぶと失敗しない。
- ・上から下のように、紙面に合わせて目を誘導する工夫をする。(誘目性)

画面でレイアウトする段階

- ・ワードアートは絶対に使わない。(安っぽい)
- ・オートシェイプは基本図形以外を使わない。
- ・長方形を使って、写真などのアタリをつける。
- ・写真とテキストボックスの縁を一直線に揃える。
- ・テキストボックス内の余白は基本的に0にする。
- ・写真の隣、地色が変わったところから、直にテキストを配置すると可読性が落ちる。テキストボックスの位置を変えたり、テキストボックス内の余白を設定する。(書式設定>テキストボックス)
- ・本文と同じ幅の白抜きの見出しを活用して、本文とのまとまり感を演出する。
- ・色は使い過ぎない。同じ色から、明度だけを変えて使うと、相性が良い。

- ・テキストと背景の色は、明度の差をつけること。フォントの選択
- ・タイトルや見出しに適したフォント、本文に適したフォントを選ぶ。本文は、すっきりした文字で。
- ・くだけた内容で無い限り、ポップ体は見出しにも使わない。(商品札用のフォント)

配置後の微調整の段階

- ・必ず印刷して、色味と可読性を確認する。
- ・揃えるべきラインは揃えること。
- ・余白のバランスが取れているか。
- ・適切な行長、行間値となっているか。
- ・フォント・文字色による可読性の向上を考える。
- ・アクセントカラーが効果的に使われているか。
- ・タイトルの大きな文字で、見た目の文字間が一定になるように、文字間(カーニング)の調整。

4. 校内ポスターの制作で指導している内容

ただ日時と場所を告知するだけでなく、発表する生徒も発表を聞く生徒も、発表会が楽しみに感じるようなポスターを作る。

イラストがキャッチコピーを利用して、発表会の内容や雰囲気が伝わるように工夫する。適切な色づかいも大切。

イラストは、フリーフォームのベジェ曲線(別紙資料参照)を使って、オリジナルのものに限る。

自分が発表会に参加しているイメージを抱きながら作成する。実際に、会場のステージに立ってみることもイメージづくりに役立つ。

5. 過去の作品の活用

校内ポスターは、翌年の作品が出来るまで一年中掲示してある。また、校内 Web では、過去の全作品のキャプチャ画像を閲覧することができる。

6. 授業担当者としての努力

生徒の作品は大切に扱うようにしている。提出された全ての作品を掲示し、校内 Web にも上げる。

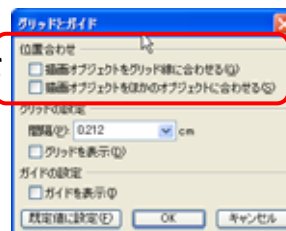
最近では、作品を「セミ光沢紙」に印刷してラミネート加工している。発色が良くなり見栄えがよい。

ベジェ曲線の作成について

- 基本的には、オートシェイプ > 線のフリーフォームを使うこと。



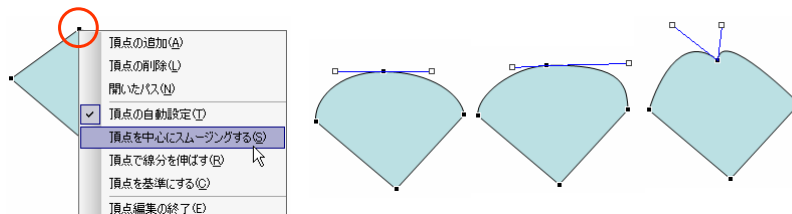
- 図形の調整 > グリッドとガイドの設定で、上2項目のチェックをはずす。



説明

頂点の属性を設定 / 方向線を出す

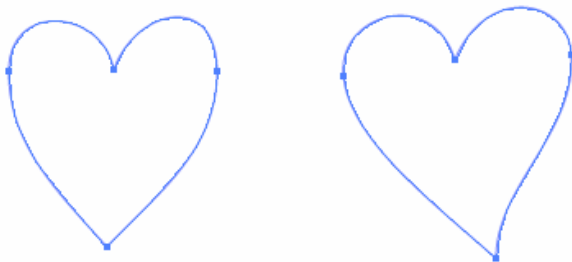
- 「頂点を中心にスムージングする」を選ぶと、頂点の両隣の制御点は直線上に並び、かつ頂点からの距離は等しくなります。
- 「頂点で線分を伸ばす」を選ぶと、頂点の両隣の制御点は直線上に並びます。ただし、頂点からの距離は個別に設定できます。
- 「頂点を基準にする」を選ぶと頂点の両隣の制御点の位置を独立して自由に設定することができます。つまり、くさび形のコーナーができます。



問題1 (スムージングと頂点基準)

左右の点は「スムージング」、中心部の2点は「頂点を基準」。

まず、この設定をしてから、方向線(マーク)を接線方向に引き出します。



問題2 (頂点を基準)

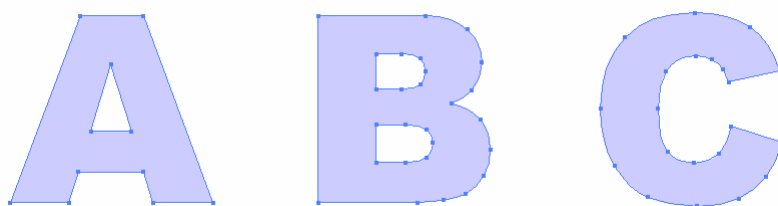
トレースし、オレンジ色で塗りつぶし、線の色はなし、とする。

方向線の長さは、そのセグメントの3分の1ぐらいが綺麗になるとされています。



問題3 (グループ化)

ABCの三文字をトレースし、赤で塗りつぶし、線の色はなし、としなさい。
AとBは抜けている部分を別につくり、グループ化しておくこと。
アンカーポイント(制御点)をヒントに作成してよいが、全てのポイントは必要ありません。
細かい作業は、ズームで拡大するとよい。



クリスマスカードのイラストより

これは、ある生徒の作品の一部です。
イラストの画像を置き、トレースして作ったものです。
コピーして、グループ解除で分解し、構造を確認してください。
このようなものを作ることが課題です。

